

ご自由にお持ち帰り下さい

南部病院・スワンクリニック

広報誌スワン 
Swan

2024年1～3月

冬号

～地域に信頼される
病院を目指して～

博進会
50th
ANNIVERSARY



おかげさまで「南部病院 50 周年」
「スワンクリニック 5 周年」を迎えました

理事長

小笠原和人

おかげさまで南部病院は「開院 50 周年」、という大きな節目を迎えることができました。これもひとえに南部病院をこれまで支えて下さった元職員の皆様、今まさに南部病院を支えている職員の皆様、そして開院当初からこの地域に温かく受け入れて下さった地域住民の皆様全てのお陰であり、この場をお借りして深く御礼申し上げます。



理事長ごあいさつ

「これから先の50年も」

病院の歴史は50年ですが、私が南部病院に着任したのは今から約15年前です。私がこの15年間に感じたこと、そして「南部病院のこれから」についてお話しさせて頂きたいと思います。私が南部病院に着任した当初、まさかこれほど多くの出来事が待ち構えていようとは想像すらしていませんでした。東日本大震災、理事長就任、病院の新築移転、電子カルテの導入、スワンクリニック開院、そして新型コロナのパンデミック、ウクライナ侵攻によるエネルギー価格の高騰等、数えあげればきりがありません。その一つひとつの出来事にこれまで経験したことのない苦労や多くの失敗がありました。病院経営については何の知識も経験も無い私でしたが、多少の努力と、そして何より「人」に恵まれたお陰でなんとかここまでやってくることができたのだと思います。ただこの程度の苦労は、創業当時のことを考えると苦労のうちには入らないかもしれません。当院の創業者である父は、小学生時代こそこの地域にいましたが、開業当時は知り合いもほとんどいない、いわゆる「よそ者」でした。まっさらな状態から、建物を建て、薬や医療材料を集め、人を集め教育し、たった一人の医師で全ての患者さんを診る。想像を絶する苦労があったと思います。

多くの苦労をしながら半世紀もの長い時間をかけ、南部病院を育ててきた父ですが、一番の業績はなんと言っても「人材育成」ではないでしょうか。ことあるごとに、「職員は忍耐と愛情で育てるんだ」「この地域だけでなく都会や海外も見せないといけない」と熱弁しており、職員の海外研修や全日本病院学会の発表に力を入れ長年継続しておりました。未熟な私が病院をつぶさずにここまで来られたのも、この「人

材育成」のおかげに他なりません。これからの時代、エネルギー価格の高騰や物価上昇、少子高齢化に伴う人材不足、働き方改革の推進による医師や職員の労働時間制限の厳格化等により、これまで以上に病院運営が厳しくなることは間違いありません。大げさではなく、全国で病院がどんどん潰れていく時代が来るでしょう。そんな厳しい状況の中で南部病院が医療を継続していくための鍵はやはり「人材育成」だと考えております。これからますます人材が減っていく状況の中で、職員に大きな負担をかけることなく、満足して働ける職場を作っていくことがこれからの私の役割だと思っています。職員が満足して働ける職場にはさらに人が集まり、笑顔があふれ、患者さんにやさしくなります。

もう一つ、医療を継続していく上で重要な鍵は「人材確保」です。そこで最も困難となるのが医師の確保だと思います。幸いなことに私の就任後、数名の医師をお迎えすることができ、常勤医8人体制で50周年を迎えることができました。こんな嬉しいことはありません。ただ現状に満足せず今後も人材確保は最重要課題として取り組んでいきたいと思っています。

当院のような民間病院は、病院の建築費から年間の運営費までほぼ全てを自らの医業収益や借金でまかなわなければなりません。そのため僅かな舵取りのミスが廃業に繋がり、それが地域住民や職員に大きな迷惑をかけることになります。これから先の50年も変わらず医療を継続して行くことが私の願いです。医療情勢がますます厳しさの一途をたどるなか、地域住民の皆様の健康を守って行くために、職員一同努力を惜しまず頑張っ参りたいと思います。



院長

小原 正和



「人材育成を継続したい」

お陰様で11月1日に開院50周年を迎えることが出来ました。職員一人ひとりの「地域の医療を守り皆様の健康を守る」という思いがひとつにまとまり、50周年を迎える事ができてとても嬉しく思います。地域の皆様にも深く支えられ、あつという間に過ぎた大変でも幸せな50年でした。開院当時診療所のまわりは田んぼや畑でしたが、現在では病院周囲は旧南部町の中心街のような発展を遂げております。周囲に町ができたことに驚くと共に地域の発展に貢献できているなど感じられる日々です。診療所から病院になると共に年々職員も増えて今年は190人を超える職員を抱える大所帯になりました。1人の職員を採用するのに四苦八苦していた昔を知っている者からすると、この地域でこれだけの職員を確保出来ていることに隔世の感がございます。この50年のあいだは絶えず採用した職員の教育に努め、専門職は奨学生を募り、就職後に進学の後押しなど自前でそだててきた効果が少しずつ出てきているのかなと感じています。しかし職員の確保は依然として大きな問題で、職員が働きたくなるような職場の環境維持に今後も務めて参りますので、この冊子をお読みの方から入職や奨学金制度利用のお声が懸かれば幸いです。

この50年の大きな出来事はやはり東日本大震災とコロナでした。震災では金曜の14時46分に地震が起こり日曜日まで停電、休診となりました。幸い大きな被害はありませんでしたが、食料、水や燃料の手配、職員の通勤用のガソリン確保など町の皆様にご協力いただき大変助けられました。当院も医師会の災害支援には早期から参加し、支援物資も現地の声を聞きながら

職員と共に準備し、支援物資を持参、配送を行いました。この経験は今後起きるであろう災害に対して病院の準備の必要性を職員自身が経験として知り、地域と一丸となって準備していかなければいけないことに気付かされました。またコロナ流行では当初から予防接種をはじめ、発熱外来も24時間体制で開設し、入院患者も受け入れておりお役に立てたかなと感じております。

病院の外部評価である病院機能評価には早期から参加し青森県では2番目に認定されております。病院開業当時から患者様の利益に繋がる行動を理念に地域貢献に努めてきた事や、接遇から医療技術習得までの職員教育を継続してきたことが評価されたと感じます。しかし、コロナの流行下では評価されてきた当院の接遇の理念を守ることが難しくなっていました。今後はその修復に務めコロナ前の「人と人とのつながりを大切に」という環境に早く戻したいと思います。

さてこれからはじまる次の50年を考えると人口の減少はどうしても避けて通れません。開院当時南部町の人口は約24500人、2045年には人口9700人高齢化率57%と高齢化、人口減少が予想されております。人口減少は人類始まって以来の現象ですので見通しをたてることも困難で、医療だけでなく視野の広い職員教育に努めていかなければならないと感じます。100周年も平穏な時代であることを祈って終わりとさせていただきます。50年間有り難うございました。

南部病院50年・スワンクリニック5年 これまでの歩み

昭和



平成



1973 (昭和48年) 年11月1日
「小笠原外科胃腸科医院」開院当時



1975 (昭和50年) 年11月
「南部外科整形外科病院」に名称変更



1996 (平成8年)
病院医療機能評価受審のための準備会議



1978 (昭和53年) 沖縄旅行



1979 (昭和54年)
田子病院・南部病院合同大運動会



2006 (平成18年) 社会医療法人認定 (青森県初)



昭和から続いた
ハワイ研修旅行



1982 (昭和57年) 年4月
「南部病院」に改称

50年変わらないこと

何事に対しても一生懸命。診療にも誠実に取り組むが、仕事以外にもとにかく全力で取り組む。仕事も遊び(職場のスポーツ大会や忘年会の余興など)も手を抜かない。そしてその姿勢はいまでも続いている。



1983 (昭和58年) 頃撮影

50年変わらないこと

当院の救急体制「まず診る。そして必要なら専門医に紹介する」という方針は当初から行われていた。



医師4人体制の頃

50年変わらないこと

医師は全員医局で過ごす。院長室は作らない。このことは当院の診療科間の壁をなくし、患者さんにとってケガも病気も早く治療してもらえるという利点があり、現在もこのスタイルである。



令和



100年後を目指して
歩み続けます



1997 (平成9年)
「救急医療功労者厚生大臣表彰」受賞



2000 (平成12年)
病院医療機能評価認定 (第1回)



2021 (令和3年)
人工関節置換術ナビゲーションシステム導入



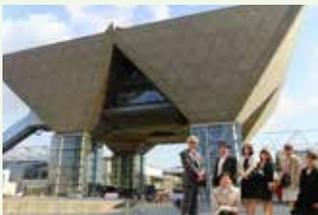
2021 (令和3年) 発熱外来、コロナ検査 (ドライブスルー)



2009 (平成21年) 日本早期認知症学会
学会長 金山重明先生 (当時院長)



2011 (平成23年)
被災地医療支援 (気仙沼・大槌町)



2017 (平成29年)
日本医療機能評価機構より依頼を受けて
東京ビッグサイト (上) で発表 (看護部長)

50年変わらないこと

13名の職員からスタートし、
他職種・多職種参加の勉強会
をしてきた。そして全国各地
で学会発表をしている。
職員が180名に増えた現在で
もそのスタイルは変わらない。
部署の壁を作らない、協力し
て仕事をする。
それが南部病院である。



2023 (令和5年) 研修医受入れ (手術の様子)

50年変わらないこと

人材育成、人を育てるという点は、
今に引き継がれています。
病院職員だけでなく、地域の小中
学生の職場体験や医療従事者を
目指す学生の実習、研修医の受入れ
も行っている。



2016 (平成28年) 新病院 (新築移転)



2018 (平成30年) スワンクリニック開院

この地に南部病院ができたことで
周囲も変化しました。これからの時代
の変化に合わせて、変わらなければ
ならないことも多いと思います。また
そうしなければ地域医療を続けて
いくことができないかもしれません。
設立当初から変わらない職場風土を
大切にしていきたいと思っています。

病院誕生の歴史



会長

小笠原 博

人生いろいろ

昭和 39 年、丁度東京オリンピックが開催された年に医大を卒業しました。1 年間のインターンを経て大学病院入局、その後福井県の公立病院、静岡県の日赤病院等に勤務。又、縁があって、当時、貧困国の南米ボリビアに J I C A（国際協力機構）より派遣され、約 3 年間当地での医療に従事してきました。

私は昭和 14 年 9 月東京で生まれました。5 才の時太平洋戦争の末期で、東京大空襲がはじまり、青森県に疎開、終戦を迎えました。終戦直後、東京は焼け野原となり、食事も手に入りにくい環境にあったため、私 1 人親と離され、青森県の片田舎にある知人の家に預けられました。地元の小学校で 3 年間過ごした後、4 年生から東京に戻り、その後高校卒業まで生活しておりました。高校 3 年生の時、父親が亡くなり、これで大学は無理と思っていた頃、京都の親戚から、こちらに来て大学に入れたら面倒みてやると声

がかかり、関西に住むことになった経緯があります。

私が静岡県の日赤病院に勤めていた時、子どもの頃、青森県で世話になった家の息子さんが片田舎の町長になり、地元で医者が居なくて困っている、何とか来てくれと再三くどかれ、とうとう断り切れず開院する事になってしまいました。

開設当初は19ベッドの診療所でした。当時（約50年前）、薬は今の時代と比べますと、とても有効なものには開発されておりませんでした。開院当時、腹痛の患者さん方が多く、又、医療費もほぼ全員（ほとんど農家の方々）3割負担でしたので、初期のうちになかなか病院受診しない傾向でした。その為、腹痛で我慢出来なくなってから来院、初診時に胃か腸に穴があいて腹膜炎を起こし、緊急手術を要する方々が沢山来院されたのです。その多くは、胃、十二指腸潰瘍、盲腸の穿孔（いわゆる穿孔性腹膜炎）がほとんどで、放置すると亡くなるので、緊急手術を要し、夜中に3例ほど手術をし、明け方に手術が終わったことも度々ありました。しかし、この無理と思われる環境と一緒に付いて来てくれる職員に恵まれたこともとてもラッキーでした。

本来であれば、このような重症例は八戸の大病院にお願いすべきですが、当時は今と違い、八戸まで行くのに車で尻内まで、そこからバスを待って病院へ、の環境でしたので、腹膜炎の方がとても移動できる状態にはありませんでした。その為、手術して入院される患者さん方が増え、ベッドが不足し、昭和48年開院当初19床でしたが、昭和50年に40床に、その後開院10年後には68床まで増床せざるを得ない状態になってしまいました。莫大な借金、医師、職員の不足等、診療以外に解決しなければならない問題を抱える事になってしまいました。しかし幸いな事に、以前JICA（国際協力機構）より依頼され南米ボリビアに3年間医療支援していた時、共に働いた横浜市大医学部出身の故 篤 進先生（整形外科）が当地に来ていただける事になり、又、自衛隊中央病院に勤務されておられた故 原田正智先生の応援もいただけ、何とか病院を続けられる事になった訳です。



緊急手術を要する患者さんが多かった



篤 進先生



原田 正智先生



緊急手術

しかし、この要件は厳しく、令和5年4月1日現在、全国の医療法人数は5万7141病院ありますが、このうち社会医療法人に認定された病院は、わずか354法人です。

社会医療法人の要件

- **救急医療**
 (例) ①夜間・休日の救急車 受入れ件数 **年750件以上**
 ②時間外患者受け入れ状態
- **災害医療**
- **へき地医療**
- **周産期医療** 分娩件数 年500件以上等
- **小児救急医療** 乳幼児夜間・休日等の受入れ件数等



トータル
3,500件以上







当院は、例②時間外患者受入れが要件を超えており、地域に貢献度が高いとして認定されました

社会医療法人の要件は非常に厳しい

このように国から認められ、この病院は現在、個人のものではなく、当然遺産相続の問題もないので、これからも地域の皆様方に役立つ病院として継続される事を願っております。

?

南部病院・スワンクリニック

は

- (1) 「**公益性の高い医療**」の担い手として、お墨付きを得た民間の病院・診療所である
- (2) 税金がほとんど免除になる
- (3) 医療の継続性が保たれる
(遺産相続の心配もない)
- (4) 病院を解散した場合、この土地・建物、その他の財産は全て**国等に帰属**する




南部病院・スワンクリニックは個人のものではない

地域を支える 医療機関であり続けるために…。



この地域は全国に先駆けて少子高齢化が進んでおり、日本の平均高齢化率を10年以上先取りしているのが現状です。地域医療を守っていくために、従来にもまして近隣の医療、介護施設、町とも連携を深め、地元の皆さんが安心して住み続けられる、そして若い世代が安心して子育てできるような医療体制を継続して行けるよう努めてまいります。



穂元 崇先生 三浦一朗先生 小向良昌先生 小笠原奈緒子先生 小笠原 博先生 小笠原和人先生 小原正和先生 佐藤雅栄先生



整形外科
小笠原 和人

整形外科
三浦 一郎

■ 膝・肩関節痛、腰痛、肩こり、外傷（骨折・捻挫）など整形外科疾患全般に対応します。外来での保存治療も入院での手術治療も行っております。超音波（エコー）を積極的に活用し、より正確な診断、より安全な治療を行っております。患者さん一人ひとり丁寧に診察することを心掛け、これからも地域医療に貢献していきたいと思ひます。



外科・内科
小笠原 博

■ 「医療はチームプレーが原則」これを基本として、地域に役立つ医療を心がけてきましたが、これからもこの気持ちを職員一同、持ち続けられるよう努めていきたいと思ひます。



内科・麻酔科
小原 正和

■ 高齢化社会を迎え 患者様の病気だけを診察、治療するだけではなく、福祉の方々とも連携して在宅医療も含め、安心して療養できるよう支援して参りたいと思ひます。



外科・麻酔科
佐藤 雅栄

■ 外科系総合診療医として広く診療を行っております。訪問診療やオンライン診療等、そのほか、麻酔医として整形外科手術にも関わっております。



小児科・アレルギー科
小笠原 奈緒子

■ 小児科専門医として、また同じ子を持つ親として、この地域の子供達の心と身体の健やかな発達・成長を見守り、ご家族の皆様が安心して子育てを楽しめますようお手伝いできれば嬉しく思ひます。



内科
小向 良昌

■ 糖尿病を中心とした内科全般の診療を行っています。内科疾患は生涯うまく付き合っていく必要があり、その方法は個人によって異なります。一人ひとりの患者さんと一緒に考えていきたいと思ひます。



整形外科
穂元 崇

■ これまで総合診療医と整形外科医として、二足のわらじで診療を行ってきました。内科も整形外科も患者さんの生活に非常に密接に関係していると考えています。これから地域に貢献していきたいと思ひます。

50周年記念作品

全職員で
取り組みました

モザイクアート

1つの作品を、それぞれ84枚の用紙を貼り合わせ、「小笠原外科胃腸科医院」と「移転前の南部病院」の作品をつくりました



残しておきたい風景

ジオラマ製作

南部病院、スワンクリニック周辺の様子
「建物や桜の木、周辺道路も綺麗に表現できました」





記念祝賀会

令和5年11月2日（於 グランドサンピア八戸）



これからも地域の病院として、お役に立てるよう邁進
してまいります。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

職員一同



スワンクリニック 診療時間のご案内



電話 0179-23-0805

〒039-0105

青森県三戸郡南部町大字沖田面字千刈 37-1

スワンクリニック

自動受付機による受付時間

午前 7:30 ~ 11:00

午後 12:30 ~ 17:00



	8:30~11:00	月	火	水	木	金	土
	午前	整形外科①	小笠原和人	小笠原和人	小笠原和人	休診	小笠原和人
整形外科②		三浦一朗	三浦一朗	三浦一朗	三浦一朗		三浦一朗
整形外科③ 総合診療科		休診	10:00~ 穂元 崇	穂元 崇	10:00~ 穂元 崇		穂元 崇
外科・内科		佐藤雅栄	休診	休診	休診		休診
小児科 アレルギー科		小笠原奈緒子	小笠原奈緒子	小笠原奈緒子	小笠原奈緒子		休診
	14:00~17:00	月	火	水	木	金	土
	整形外科	小笠原和人	三浦一朗 穂元 崇	休診	休診	休診	休診
内科	16:00まで 小向良昌	16:00まで 小向良昌	外科・内科 佐藤雅栄	16:00まで 三上信久			
小児科 アレルギー科	休診	予約のみ 小笠原奈緒子	休診	小笠原奈緒子			



南部病院 診療時間のご案内

電話 0179-34-3131

〒039-0105

青森県三戸郡南部町大字沖田面字千刈5 2-2

【内科】小原正和						
	月	火	水	木	金	土
8:30 ~ 11:00	○	○	○	休診	○	休診
14:00 ~ 16:00	訪問診察	○	○		○	
16:00 ~ 17:00	○	○	○		○	

【内科】小向良昌						
	月	火	水	木	金	土
8:30 ~ 11:00	○	○	○	休診	○	○
14:00 ~ 15:00	休診	休診	訪問診察		訪問診察	休診
15:00 ~ 17:00			○		○	休診

【外科・内科】佐藤雅栄						
	月	火	水	木	金	土
8:30 ~ 11:00	休診	○	○	休診	○	○
14:00 ~ 17:00	検査	訪問診察 検査	休診		手術	休診

【整形外科】小笠原和人、三浦一朗、穂元 崇						
	月	火	水	木	金	土
14:00 ~ 17:00 ※午後のみ	検査・手術 (三浦)	○ 予約のみ	手術	休診	手術	休診

【外科・内科】小笠原 博						
	月	火	水	木	金	土
8:30 ~ 11:00	○	○	○	休	○	休

社会医療法人博進会

<https://nanbu-hp.or.jp>

広報誌スワンは、当院ホームページにも掲載しております